

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第 39 回皇后盃全日本女子柔道選手権大会



初優勝を果たした瀬川麻優選手（右）と夫の勇気氏。勇気氏の支えが力になったと2人で喜びを分かち合った

第39回 皇后盃全日本女子柔道選手権大会

瀬川麻優が初の栄冠



皇后盃を手にして喜びの笑みを浮かべる瀬川選手

体重無差別で女子柔道日本一を決める第39回全日本女子柔道選手権大会が4月21日、横浜武道館（神奈川県横浜市）で開催された。

今大会は推薦選手と全国10地区の予選を勝ち上がった計36名が皇后盃をかけ、熾烈な争いを展開した。決勝は瀬川麻優（東京・ALSOX）と前回大会で準優勝の児玉ひかる（推薦・SBC湘南美容クリニック）の対戦となり、終始瀬川が攻め続け、児玉が反則負けとなった。瀬川は初の栄冠を手にした。

◆
今大会から試合ルールが変更され、旗判定が復活した。試合時間5分（決勝8分）で行われ、時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行わずに旗判定で勝者を決す。また、反則負けとなる指導の数は3から4に変更された。



会場の横浜武道館外観

準々決勝①

梅津志悠
(九州・JR)

○**谷落**
(2分43秒)

長谷川瑞紀
(東京・JR 東日本)

2回戦で前回王者の梅木真美（推薦・ALSOK）に勝利した梅津と長谷川の顔合わせ。試合は、梅津が谷落で長谷川に一本勝ち。第31回大会以来の準決勝進出を果たした。



谷落で一本勝ちをおさめた梅津（奥）

準々決勝②

瀬川麻優
(東京・ALSOK)

○**小内刈 + 横四方固**
(4分22秒)

棕木美希
(中国・環太平洋大学)

前回ベスト8の瀬川と環太平洋大3年生の棕木の対戦。残り時間1分を切ったところで、瀬川が棕木の体勢を崩し、小内刈で技ありを奪うと、そのまま横四方固を決めて合わせ技一本で勝利。梅津との準決勝に駒を進めた。



小内刈で技ありを奪う瀬川（奥）

準々決勝③

児玉ひかる
(推薦・SBC 湘南美容クリニック)

○**崩袈裟固**
(1分53秒)

伊藤七海
(関東・ブイ・テクノロジー)

前回大会で準優勝の児玉と伊藤の対戦。試合は児玉が攻めの柔道を展開。一方の伊藤はなかなか攻める機会をつくれずに苦戦していた。試合開始1分30秒、児玉が内股で有効を取ると、そのまま抑え込みに入り崩袈裟固で一本勝ち。



崩袈裟固を決める児玉（上）

準々決勝④

池田 紅
(東京・東海大学)

○**旗判定**
(2-1)

米川明穂
(関東・コマツ)

前回大会で初出場ながら3位入賞を果たした池田と米川の対戦。試合はお互いに技は仕掛けるものの、決め手に欠き、こう着状態が続く。両者思うように攻めきれないまま、試合は終了。旗判定の結界、2-1で池田が辛勝した。



技を仕掛ける池田（右）

準決勝①

瀬川麻優 (東京・ALSOK) ○旗判定 (3-0) 梅津志悠 (九州・JR)

瀬川と梅津の顔合わせ。組手争いで瀬川が梅津の動きを封じる。試合時間49秒、消極的な梅津に指導1が入る。梅津はなかなか攻められず、2分40秒、梅津に再び指導が与えられる。残り時間7秒で場外に出た瀬川に指導1となり、試合終了。旗判定の結果、瀬川が初の決勝に進出した。



攻めの姿勢をみせる瀬川 (上)



果敢に技を仕掛ける児玉 (左)

準決勝②

児玉ひかる (推薦・SBC 湘南美容クリニック) ○旗判定 (3-0) 池田紅 (東京・東海大学)

東海大学の先輩と後輩にあたる両者の対戦。試合序盤から両者が内股を仕掛け、攻めの姿勢を見せる。組手争いでは体格で勝る児玉が優位に立ち、試合を通して積極的に技を仕掛けていった。両者ポイントを取れないまま試合は終了。旗判定で児玉が勝利し、2大会連続の決勝へ勝ち上がった。

■無差別に挑んだ軽量級の選手たち

今大会最軽量は、57kgの瀬田萌生^{めぐみ}

(関東・自衛隊体育学校)と柴田理帆(東京・JR東日本)の2名。瀬田は初戦で敗退。柴田は体格差をはね除けて初戦を突破するも、次戦で敗退となった。

●コメント

◎瀬田萌生選手

「普段できない階級上の選手と試合ができて楽しかったです。絶対に一試合は勝ちたいと思っていましたが、あと一歩のところで技が決められなかったのが、次に活かしていきたいです。自分の階級でもトップを目指して頑張ります」

◎柴田理帆選手

「初戦では、最初にポイントは取れましたが、攻める気持ちで前に出て、投げて逆転勝ちできて良かったです。もう少し自分が練習してきたことを出したかったです。組手をすぐに切られてしまい、悔しかったです。まずは自分の階級で勝てるように稽古して、その先に皇后盃でも勝てるような稽古を積んでいきたいです」

日本武道館の単行本

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

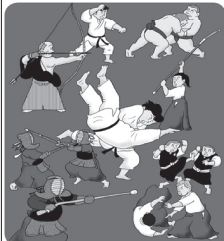
マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

柔道は、大澤慶己、長谷川博之、腹巻宏一
吉村和郎、山内直人の5氏を掲載！

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147

決勝

瀬川麻優
(東京・ALSOK)

○反則負け
(4分46秒)

児玉ひかる
(推薦・SBC 湘南
美容クリニック)

初の決勝進出を果たした瀬川と、2大会連続の決勝に臨む児玉の初優勝を懸けた対戦。試合時間1分6秒、組み合わない両者に指導1。瀬川は児玉の奥襟をつかみ、果敢に技を仕掛けていく。一方の児玉は組手争いに苦戦。試合時間3分までに三つの指導が与えられる。試合時間3分24秒、児玉が前に出たところを瀬川が払巻込を決め、技ありを奪う。一方、後がない児玉であったが攻めに転じられず、試合時間4分46秒、児玉に偽装的な攻撃で四つ目の指導が与えられ、試合終了。瀬川が悲願の初優勝に輝いた。



払巻込で瀬川（手前）が技ありを獲得する



組手争いで盤石の強さをみせる瀬川（右）

パートナーの支えを力に

●優勝Ⅱ瀬川麻優 五段(ALSOK)



るという気持ちでした」

▽この優勝を今後どのように繋げていきますか

「講道館杯の優勝を目指して、トレーニングを続けて技術を磨いていきます。また次のグランドスラムなどに繋げていければと思っています」

▽優勝した今の気持ちはいかがですか
「すごく嬉しいです。今までベスト8がずっと続いていたので、今年こそは優勝したいと思っていたのでそれが叶ってよかったです」

▽決勝はどのような気持ちで臨みましたか

「監督、旦那さんも含め、ここはチャンスだと思っていたので、あと一つ勝てば優勝だということ、8分間と長い時間でしたが、先に攻めたものの勝ちだと思い、前に出て攻める柔道をしました」

▽決勝で技ありを取った払巻込を振り返っていかがでしたか

「対戦相手の児玉選手が得意とする技ですが、ここで仕掛けて決めてや

「私生活から柔道まで支えてくれました。選抜が終わってすぐネガティブになってしまっていた時に、近くで励ましてくれたことが力になりました。1位がなかなか取れていなかった中で、今回皇后盃で優勝できてよかったです」

▽皇后盃を制して、今後世界大会での活躍も視野に入れていますか

「今27歳で、まだまだチャンスがあると思っていますので、今後も目指していきたいです」

○準優勝Ⅱ児玉ひかる (SBC湘南)

美容クリニック

「自分から前に出られなかったのが一番の敗因だと思います。準決勝で5分間戦ったあとでの決勝で、難しい部分もありましたが、GS(ゴールデンスコア)がなかったもので、体力に関しては余裕があると思っていました。決勝は8分でしたが、『投げて勝つ、抑えて勝つ』をテーマに臨んだので、時間の長さは考えずに一本取ることを目指していました」

▽第3位Ⅱ梅津志悠 (JR)

「素直に嬉しいです。体重差もありましたが、自分の力不足でした。喧嘩四つの組手が苦手でしたが、自分から積極的に組みにいき、攻めることができたのはよかったと思います。雑な部分が出てしまっていたので、手堅く勝てるように稽古を積んでいきます」

▽第3位Ⅱ池田紅 (東海大学)

「去年は初めての出場で、この大会の『重み』を意識せずに出場し3位という結果に満足している部分もありました。しかし今年は、去年よりもいい結果を求めて出場したので、とても悔しいです。児玉さんとは普

段練習をする機会もあり、強さを感じていました。5分間何もできなかったと感じています。家族、東海大学の仲間がたくさん応援してくれたことが本当に力になりました」

▽金野潤全日本強化委員長 講評

「(瀬川選手は)今日の試合は非常に技術的にも精神的にも素晴らしい試合だったと思います。心から敬意を表します。組手と足技の使い方、相手によって妥協しないでプレッシャーをかけ続け、ミスのない試合運びをしていたと思います。決勝も力のある児玉選手でしたが、組手を完全に封じて試合を支配していたと感じました。」

ルールに関しては、GSの長さによる差が生まれないことで公平感があったと思います。しかし旗判定の難しさも今回感じました」



第39回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

優勝 瀬川 麻優

○=一本、⊖=技有、⊕=有効

Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック																							
6	7	3	1	4	3	2	2	2	10	2	4	3	1	1	3	3	7	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	2	4	1	4	8	4	1	1
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック				Dブロック				出場回数																			
Aブロック				Bブロック				Cブロック																											



一般の部決勝・大将戦＝静岡県C・清水（左）の上胴

第 68 回全日本銃剣道優勝大会

▶一般の部優勝＝静岡県選抜Cが表彰式で優勝杯と賞状を受取る



初優勝 静岡県選抜 C

一般の部

第68回全日本銃剣道優勝大会（主催＝全日本銃剣道連盟）が4月21日に日本武道館で行われ、一般の部・女子の部・防衛省第1部（陸上自衛隊の指定部隊）・防衛省第2部（1部以外の陸・海・空自衛隊）の全4部門に分かれて優勝を争った。

一般の部は、静岡県選抜Cが大会5連覇中の本間道場A（神奈川県）を4回戦で下し連覇を阻み、勢いそのまま初優勝を手にした。

女子の部は、普通科教導連隊（静岡）が前回大会で優勝の北海道選抜Aから勝利をもぎ取り、悲願の初優勝を果たした。

防衛省第1部は、第16普通科連隊（長崎）が前回大会優勝の普通科教導連隊（静岡）や同準優勝の第1普通科連隊（東京）を制し、第59回大会以来9年ぶりの優勝を手にした。

防衛省第2部は全部門で最多の71チームが参加。日本原駐屯地（岡山）が2年ぶりの優勝を果たした。

■一般の部

1チーム3人制で選手の年齢の上限はなく、高校生以上が出場。計40チームがトーナメント方式で競い合っていた。

4回戦で静岡県選抜Cは、5連覇中の本間道場Aと対戦。本間道場Aは前回大会優勝メンバーを揃え、静岡県選抜Cは苦戦したものの勝利。準決勝は、千葉県選抜が元氣道場(新潟)に2-1、静岡県選抜Cが九徳塾A(滋賀)に2-1で勝利し、決勝に進出した。

▽決勝

静岡県C	2-1	千葉県
渡部 純	—上	高木 奨平
渡邊裕太	①下	三浦 巨人
清水 樹	①上—上	山本 拓哉

先鋒戦、激しい攻め合いが続くが、千葉県・高木が上胴を決めて1本勝ち。中堅戦、静岡県C・渡邊が試合序盤に下胴を決めて2本勝ち。優勝は大将戦に委ねられた。大将戦、静岡県C・清水が上胴を先取したが、千葉県・山本が果敢に攻め

て上胴を突き1本を取り返す。残り時間あとわずかのところで、清水が上胴を決めて優勝をした。

□優勝Ⅱ静岡県C・渡邊裕太監督

「昔から銃剣道をやっていたんです。が、優勝することがなかった。ので、一般の部で優勝できて非常に嬉しく思っています。(今後の展望としては)銃剣道が好きなので、一般人として銃剣道で貢献できたいいいなと思っています。銃剣道をより良くするために、一般人として協力していきたいと思っています」

■女子の部

1チーム3人制で、過去最多に迫る43チームが出場した。準決勝は普通科教導連隊が愛媛県選抜に2-1、北海道選抜Aが北海道選抜Cに2-1で勝利した。この結果、前回大会と同じく静岡県対北海道の優勝決定戦となった。

▽決勝

普教連	2-1	北海道A
森川有紀子	コ	斎藤彩花
花田莉緒	①上	石岡悠来
今澤美紗貴	上	森 音楽

先鋒戦、両者攻め合うが1本が取れない中、試合終了間際に普教連・森川が小手を決めて1本勝ち。中堅戦、後がない北海道A・石岡が試合開始の号令とともに、果敢に攻めていく。中盤、石岡が下胴を先取し、



女子の部決勝・先鋒戦＝普教連・森川(右)の小手

続いて上胴を決めて2本勝ち。大将戦、声援が飛び交う中、普教連・今澤が上胴を決めて1本勝ち。北海道A・森は最後まで粘り強く攻めるも試合終了となった。



女子の部優勝＝普通科教導連隊(静岡県)



——有効部位の記載方法——
先取した方の有効突き部位を○で囲み、上胴は「上」、下胴は「下」、のどは「ノ」、小手は「コ」、肩は「カ」と記載。



防衛省第1部決勝・次鋒戦＝16普連・平井（左）の上胴



防衛省第1部優勝＝第16普通科連隊（長崎県）

■防衛省第1部

1チーム5人制で、61チームが出場した。準決勝には、前回大会優勝の普通科教導連隊、同準優勝の第1普通科連隊、同3位の第16普通科連隊と第1空挺団（千葉）が順当に勝ち進んだ。

準決勝は、1普連と1空挺との試合は大将戦までもつれ、1普連が勝利。一方、16普連は普教連に先に3勝を決め、3―2で決勝戦へと駒を進めた。

▽決勝

16普連 5―0 1普連

16普連	5	―	0	1普連
蘭田泰之	判	―		角南志明
平井良太	判	上	―	仁尾正樹
中前圭輔	判	―		蚊口武丸
高濱雄太	判	―		郷右近光里
岩永健太	判	―		福田賢二

先鋒戦、両者攻め合いが続くが判定となり、16普連・蘭田が勝利した。次鋒戦、16普連・平井が相手の一瞬の隙を突き、上胴を決めた。続けて鮮やかな上胴をもう1本決めて2本勝ち。中堅戦、両者一步も譲らないなか、判定に持ち込まれ、16普連・中前が勝利を収めて優勝を決めた。副将戦、大将戦は旗判定となり、両試合とも16普連が勝利。先鋒戦の勢いそのまま5連勝し、前回大会3位の雪辱を果たした。

□優勝16普連・北慎一郎監督

「三度目の正直といった感じで、やつとの優勝だったのでホントに嬉しかったです。先鋒の最年長の蘭田が勢いをつくってくれましたので、その勢いのまま自分のやるべきことを各選手がやった成果が出たと思います」



防衛省第2部決勝・副将戦＝日本原・徳田（右）の下胴



防衛省第2部決勝・次鋒戦＝日本原・松延（右）の上胴



防衛省第2部決勝・大将戦＝日本原・大庭（右）の上胴



防衛省第2部優勝＝日本原駐屯地（岡山県）

■防衛省第2部

1チーム5人制で71チームが出場した。準決勝は、日本原駐屯地が前回大会3位の富士駐屯地（静岡）を4―1で下し、旭川駐屯地（北海道）が横田基地（東京）に5―0で勝利し、決勝に駒を進めた。

▽決勝

日本原	4―1	旭川
植田晋悟	上―〇判	間村将行
松延靖大	上―	傍島重生
内藤介人	⑦下―	川崎喜一
徳田裕人	下―	伊藤健剛
大庭裕二	上―	名和稜

先鋒戦、日本原・植田が上胴を突いて先取したが、旭川・間村が的確にのどを突き1本。互角の戦いは、旗判定となり3本揃って間村に上がつた。次鋒戦、旭川・傍島が一步詰めてきたところを日本原・松延が素早く上胴を突き1本。松延がこの1本を守り切った。中堅戦、試合開始直後に、日本原・内藤が旭川・川崎の突きをかわして下胴を決めた。中盤、お互いに間合いを切った後に、内藤が勢いのある下胴を決めて勝利

した。

副将戦、日本原・徳田が相手の一瞬の隙を突き下胴で1本を取って勝利を収め、2年ぶりの優勝を決めた。大将戦は旭川・名和が一矢報いるため果敢に攻めるが、日本原・大庭が鋭い上胴を決めて1本勝ちした。

【大会成績】

▼一般の部①静岡県選抜C（静岡）②千葉県選抜（千葉）

③元氣道場（新潟）、九徳塾A（滋賀）

▼女子の部①普通科教導連隊（静岡）②北海道選抜A（北海道）③愛媛県選抜（愛媛）、北海道選抜C（北海道）

▼防衛省第1部①第16普通科連隊（長崎）②第1普通科連隊（東京）③第1空挺団（千葉）、普通科教導連隊（静岡）

▼防衛省第2部①日本原駐屯地（岡山）②旭川駐屯地（北海道）③富士駐屯地（静岡）、横田基地（東京）

横田基地（東京）